



大阪府立泉鳥取高等学校存続に関する要望書

平素は、本市教育行政の推進に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。また、阪南市内の唯一の高校である大阪府立泉鳥取高等学校（以下「泉鳥取高校」という。）の運営にご尽力いただいていることに対し、改めまして感謝を申し上げます。

泉鳥取高校は、昭和51年に創立され、これまで、普通科高校として1万3,183人の卒業生を世に送り出し、大阪南部地域の事業所や産業機関等、地域振興を支える人材の輩出に大変重要な役割を果たしてきた高校です。

そして、泉鳥取高校は、近年、地域の学校として本市を中心に地元フェスタへの参加や幼稚園・小中学校との交流を積極的に行い、また、公民館活動や文化芸術活動においても、市民と協働する高校生が集う学校として、多くの市民層と熱心に交流を重ねてこられました。この他、学校図書館の開放事業やイングリッシュカフェの共同実施、スポーツ交流事業等を通じ、本市の地域活性化や市政充実に大きく貢献していただいているところです。

このような中、泉鳥取高校は地元校として、本市をはじめとする泉南地域在住の中学生の進路選択校となってきました。

市内や近隣の高校生が通うことが可能な公立普通科高等学校（以下「普通科高校」という。）は、泉南地区内においても複数校ありますが、今般、泉鳥取高校が再編整備の対象校となり、廃校となった場合には、府南部に位置する市町の生徒は、事実上、普通科高校への進学を選択の幅を大きく狭められることになり、家庭の事情等により地元校を選択せざるを得ない生徒もいる中、公立高校の有するセーフティーネットとしての機能を、府南部地域の生徒や家庭が享受することが困難となります。

また、大阪府立学校条例第2条第1項においては、「府立学校は、・・・府立学校の特色その他の事情を総合的に判断し、・・・配置されるよう努める」とされており、市域の中学生の高校進学を均等に確保する観点からも、本市のように市内に高校が1校しかなく、近隣に私学の高校も少なく、事実上、当該市内高校以外に受験可能な高校が無い地域においては、再編整備の対象校の要件を定める同条第2項の適用に当たっては、慎重に判断されるべきものと考えています。

具体的には、その要件として、「3年連続して定員に満たない高等学校で、その後も改善する見込みがない」とされていますが、泉鳥取高校は、昨年度は1名のみが定員に満たなかっただけであることからすると、改善する見込みについては、今後の志願者数の動向を見極めて判断する必要があります。直ちに再編整備の対象とされないよう要望いたします。

また、現在、府内では町村を除き私立を含め高等学校のない市は存在しない中、本市にとって泉鳥取高校は、きわめて重要な位置を占める社会資源であり、同校は無くてはならない機能をもつ重要な施設となっているだけでなく、都市格を形成する観点からも不可欠な施設であることから、泉鳥取高校の存続を強く要望します。

大阪府教育委員会

教育長 橋本 正司 様

令和3年7月5日

阪南市長

水野 謙二